

### 北保証サービスの上半期取扱実績

## 転貸融資は34%減に

### 負担軽減へ独自に金利引き下げ

北保証サービス(株)(小林健二社長)は、上半期の金融事業取扱実績をまとめた。地域建設業経営強化融資制度(転貸融資)は、取扱額が二億四千六百万円。前年度同期比で三四%減となった。また、基金枯渇で金利助成等が終了したことを受け、同社では利用者の負担軽減措置として、持出しで今月から融資利息を一律〇・二五%引き下げている。これにより、取扱が集中する年度末に向け、利用拡大につなげたい考えだが、「それでも影響が大きいく、利用の減少は避けられないのでは」と分析している。

転貸融資の上半期取扱実績は二十三件、二億四千六百万円。前年度同期に対し件数で五件減、金額で約一億二千六百万円減となった。

た。本年度から国の金利助成等がなくなるため、前年度に駆け込み申請が増えたことが影響していると考えられる。

金利助成等は制度のアドバンテージとして、利用者が負担する調達金利の〇・五%分と、出来高査定費用八万円を基金で賄ってきた。しかし、基金が枯渇したため、九月三十日の融資実行分をもって終了となった。

同社では、このままだと利用者の負担が増えることから〇・二五%を融資利息から一律に引き下げることにした。十月一日から持出しで運用している。

転貸融資は低利の資金調達が可能で、実績も順調に推移してきた。出来高で五〇%以上を対象とするため、年度末の二月と三月に

取扱が集中。同時期だけで実績の七割強を占める。二

十六年度は百四十一件、約七十五億七千万円で過去最高の実績額となっていた。一方、下請債権保全支援事業(保証ファクタリング)は七十六件、約四億三千二百万円。件数で四十三件減、金額で約四億円減となった。

ことしは倒産も少なく、「業界も安定しているのだから、利用するニーズが縮小している」と指摘する。九月は、実績の統計をとって以来、初の「ゼロ実績」となった。

商品別では唯一、前年度同期と変わらなかったのが枠保証。債権残高のピークで保証枠を設定し、その範囲内で売掛金・手形を一〇〇%保証する商品で、上半期は十四件、約一億三千五百万円の取扱額だった。